

第1回 食の循環によるまちづくり推進委員会 議事録

日 時：平成22年6月18日（金） 午後6時45分から午後9時

会 場：新発田市カルチャーセンター 視聴覚室

参集者：

〔委員〕

斉藤幸子委員、渡辺栄子委員、嶋谷次郎八委員、高橋聖治委員、中村光昭委員、西鉄幹委員、木戸寿明委員、佐藤ミネ委員、高山廣伸委員、中野藤彰委員、清野千香子委員、出村満委員、林洋子委員、中野柳委員、相馬重輔委員、伊藤ひろみ委員、佐藤恭子委員、加藤康弘委員、渡辺兼一委員、中野則司委員、神田より子委員、津村賢委員、赤塚昌子委員、下條莊市委員、星野龍一委員、鈴木裕子委員、肥田野健康推進課課長補佐（市野瀬委員代理）、宮崎光夫委員、茂野栄委員、大竹政弘委員

〔アドバイザー〕

新潟医療福祉大学 健康科学部 村山伸子教授

〔事務局〕

塚野総合政策部長

食の循環によるまちづくり推進室（高橋室長、櫻井参事、下妻副参事、吉田主任）

1 開会

【事務局】

本日はお集まりいただきありがとうございます。第1回目の推進委員会ということで、片山市長から挨拶をいただきます。

2 あいさつ

【市長】

今ほど案内があったように、第1回目食の循環によるまちづくり推進委員会ということで、食の循環に関わる皆様にお集まりいただきました。夜分に関わらずご参集いただいたことに感謝申し上げます。市では人、環境、社会にとって真に望ましい食を実現するため、かつて当たり前であった「食の循環」に着目をし、市民、事業者、市が一体となったまちづくりが必要と考え、関係する皆様方、議会の皆様から理解をいただき、昨年1月に条例を施行いたしました。これを具体的に実施するため、昨年12月に推進計画を策定し、取組をスタートしたところです。私は、新発田市のまちづくりを支える最大の資源が城下町としての長い歴史に育まれた豊かな大地であり、それを活かした食料供給都市の実現を目指してまいりました。以前は稲作において、カドミウム問題がおこり、その対策を農業団体と一体となり取り組んできました。併せて、稲作だけの農業からの脱却、良質な堆肥を使用し適地適作の考えのもと、消費者から新発田ならではの安全・安心な高品質な農作物の新発田ブランド化を目指し、生産加工の推進にも努めてきました。これまでの生産者の一面的な視点から、多面的な消費者視点へと食から見た市民生活を多角的に捉え、食料供給都市の構想を食の循環によるまちづくりとして、総合的に策定してまいりました。

これまでの間、条例制定、計画策定には市民、関係団体の皆様からご意見をいただき、分野を横断し、時間をかけて検討を重ねてまいりました。お蔭様で、様々な情報誌等にも取り上げていただくなど、全国的にも注目をいただいています。推進委員会には、食の循環によるまちづくり

を市民の皆様並びに全国へ情報発信していただくことはもちろんのこと、委員同士で互いに情報共有し、それぞれの団体や組織等の活動に活かしていただき、その活動がやがて大きなうねりとなって、市全体に広がっていくことを期待しております。本日は、これまで条例並びに推進計画の整備にご指導ご協力をいただいた新潟医療福祉大学の村山伸子教授においでいただいております。先生には、今後とも新発田市の食の循環によるまちづくりのアドバイザーとして協力いただきたくお願いいたします。

後ほど事業計画の中で説明申し上げる、「モッタイナイ運動」を全市的に取り組んでいきたいと考えております。皆様には、この運動の中心的な役割を担っていただき、全市的に広げていただきたくお願いいたします。

終わりに、わがまちは食によって「まち」が変わり、子どもも変わる、そういった「食のまち」でありたいと念じて挨拶とさせていただきます。

【事務局】

市長につきましては、別用務につき退席させていただきます。

議事に入らせていただく前に、資料確認及び進行方法等についてお話をさせていただきます。

(資料及び進行方法確認)

3 議 事

【事務局】

では、議事に入らせていただきます。

最初に、食の循環によるまちづくりのイメージについて、改めて確認をお願いします。

(「食の循環によるまちづくり DVD」上映)

【事務局】

DVD をご覧いただきましたが、加えて「食の循環によるまちづくり推進計画」の概要版に沿ってもう少し説明させていただきます。

(資料「推進計画概要版」に基づき説明)

【事務局】

食の循環によるまちづくりについて、イメージを確認いただけたと思います。本日は、特にこれまで「食の循環によるまちづくり」について、ご指導いただいてきた新潟医療福祉大学の村山伸子教授にもお越しいただいております。先生から、この組織への期待や方向性等について、一言お願いいたします。

【村山教授】

こんばんは。今日このようなかたちで組織が立ち上がったことを嬉しく思います。新発田市の取組ですが、条例から推進計画づくりまで地道に着実に進められてきています。長い時間をかけて作り上げてきたものです。その甲斐あって、市長のご挨拶にもあったように、全国から大変、注目される取組になっています。実際に、私も国の方からこの事例について問い合わせいただく機会があります。また、県内、県外からも色々なかたちで行政の方にも問合せがあるとのこと。学会等で食の循環によるまちづくりについてお話をいただくこともあります。特に、都会の方からはとても羨ましいという言葉いただきます。こうした循環ができる地域は、国の中でも限られており、恵まれた地域で食の循環の取組ができることは貴重であると思います。日本国内でのモデルとなるような取組であることを皆さんに知っていただきたいと思っています。

しかし、外からの注目のわりに、市民の中での広がりや、まだまだのところがあると感じています。この会に様々な立場の方が参集されているので、それぞれの立場の中で取組を進め、力に

なっていたきたいと思っております。DVDにあったように、生産から収穫、調理し、食べて、土に還し、再び生産に繋げていく段階、それぞれ取組は行われていますが、それを繋げて運動にしていくことが、皆様に求められていることであると考えています。是非、この会を通じ、目的、目標を共有して、大きな運動にしていきたいと思います。

【事務局】

ありがとうございました。

ここからの進行については、座長にお願いしたいと思います。本日お集まりの皆様の中から、お願いしたく考えていますが、いかがでしょうか。

【A委員】

以前、食のまちづくり検討委員と一緒に務めていた、歯科医師会の木戸さんが適任と思うので推薦いたします。

【事務局】

今ほど、推薦がありましたかよろしいでしょうか。

【委員】

(承認)

【事務局】

それでは、木戸委員に座長をお願いいたします。

【座長】

ご指名に基づき、議事の役員選出まで座長を務めさせていただきます。

では、推進委員会規約(案)について、事務局より説明をお願いします。

【事務局】

(資料に基づき説明)

【座長】

ただ今説明のあった件について、意見、質問等があればお願いします。

【委員】

(意見等なし)

【座長】

特に意見等が無いようであれば、拍手をもって承認いただくようお願いします。

【委員】

(承認)

【座長】

続いて、推進委員の紹介についてお願いします。

【事務局】

(資料に基づき説明)

【座長】

このように多種多様な立場の方が集まる委員会は、他にはないのではないかと感じました。これから、2年間の任期ということですので、是非、委員間で情報交換をしながら取組を進めていければと思っています。

続いて、役員について規約に基づき選任する必要がありますが、どのように進めましょうか。

特に委員から意見等がなければ、初めての会ということもあるので事務局案があればお願いします。

【事務局】

では、事務局から提案させていただきます。

委員長：下條莊市委員

副委員長：清野千香子委員

監事：渡辺栄子委員、星野龍一委員

以上のとおりお願いしたいと考えております。

【座長】

ただ今、事務局案についてお話がありましたがいかがでしょうか。

【委員】

(承認)

【座長】

では、今ほど選出のあった委員長、副委員長から挨拶をお願いします。

【委員長】

私は農業を営んでいます。大役を仰せつかいびっくりしています。食の循環によるまちづくりについては、非常に気になっていた取組であり、良い取組だとは思いつつ、行政だけの空回りになるのではとの危惧もありました。しかし、こうした組織ができるということで賛成の思いでいます。精一杯務めさせていただきます。

【副委員長】

条例を作る段階から関わらせていただきました。栄養士会新発田支部に籍を置いており、仕事面では手伝い程度になるかもしれません。しかし、家庭からや主婦という立場から意見が大きなものになるのかと感じています。この会が有意義なものになるよう務めさせていただきます。

【座長】

では、座長による進行はここまでとさせていただきます。(座長退席)

【事務局】

これまでの進行ありがとうございました。

この後の進行については、規約に基づき議長を下條委員長にお願いします。

【委員長】

では、議事を進めさせていただきます。

平成 22 年度事業計画(案)及び予算(案)について事務局から説明をお願いします。

【事務局】

(資料に基づき説明)

事業目標

平成 22 年度は、「食の循環によるまちづくり」を市内外に浸透させることを目標とし、啓発普及、情報発信、仕組みづくりを進める。

事業内容

・リレートークの開催

平成 22 年度は全 4 回計画(当委員会では 2、4 回目を主催)

第 2 回は「しばたのおかず」の発刊に係り開催

第 4 回は「モットイナイ運動」の推進に係り開催

・大使、応援団制度

大使候補に永島敏行氏(俳優)を想定

大使制度、応援団制度ともに、制度の名称を各委員から発案願いたい。

・ロゴマーク・キャラクター

市内に多くのロゴ、キャラが存在しているため、その認知度、活用状況等について平成22年度中に調査し、食の循環によるまちづくりの専用ロゴ、キャラが必要なのかを当委員会でも伺い、方針を固めていきたい。

・モットイナイ運動

毎日の暮らしに直結しており、誰でもわかり易い取組であり、当委員会のメイン事業としてはどうか。

(他自治体の取組状況の紹介、新発田市での取組具体案の説明)

予算(案)について

【委員長】

最初にリレートークについて、ご意見いただきたいと思います。

本委員会で第2、4回目を主催するとのことですが、いかがでしょうか。

もし、意見等がないようであれば、リレートークについては詳細な段取りが必要であるかと思うので、まずは役員と事務局で詳細案を練らせていただくことでよろしいでしょうか。

【委員】

(了承)

【委員長】

食の循環大使と応援団制度について、意見、質問等はないでしょうか

大使は永島敏行氏にほぼ決定と考えてよろしいのでしょうか。

【事務局】

本日、この委員会で了承いただければ、近日中に調整させていただき予定にしています。永島氏側としては、本委員会で了承を得ることができれば引き受けたいとの内諾をいただいています。

【委員長】

大使候補として永島敏行氏でよろしいでしょうか。テレビ等でも活躍しておられるので個人的には適任と考えています。

【B委員】

昨年度のリレートークでの講演も聞かせていただいたが、永島氏が適任ではないかと思えます。

【委員長】

テレビ等でも活躍されており、非常に農産物や食について造詣が深い方であるので、永島氏にお願いすることでよろしいでしょうか。

【委員】

(了承)

【委員長】

応援団制度については、より今後の調整を必要とすることであるので、事務局で詳細をつめることでよろしいでしょうか。

【A委員】

大使制度、応援団制度の名称について、仮称の提示がありましたが名称が長く使いづらいと思います。例えば、「食循環新発田広報大使」など縮めるかたちが良いのではないのでしょうか。

【委員長】

「食の循環によるまちづくり」自体が長いので、今のご意見のように縮めるのも一つの方法だと思います。後ほど、委員から公募するという考えはあるのでしょうか。

【事務局】

本日の議事の中で名称について決定できればよいのですが、時間に限りがあるため、様式でもって提案いただきたいと考えています。この時間の中では、ご意見だけ頂戴したいと思います。

【B委員】

大使の任期についてはどうなっているのでしょうか。

【事務局】

現時点では一年ごとの更新を考えています。

【委員長】

よろしければ、続いてロゴマークとキャラクターについて意見ををお願いしますが、急に必要、不要について論議するのは難しいと思っています。実際、市で行う事業の中で既に存在するキャラクター等があるので、ロゴやキャラクターだらけになることが考えられますが、その辺りで意見等はないでしょうか。

【委員】

(意見等なし)

【委員長】

では、ロゴマーク等の件についても、もう少し役員、事務局等で詳細を練らせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。事業計画が盛り沢山のため、できるところからやっていってはどうかと思います。

【委員】

(了承)

【委員長】

では、モッタイナイ運動についてお願いします。

個人的には「もったいない」と「ケチ」が同じだと考えられてきたと感じています。昔は「もったいない」が当たり前で、食後の茶碗の始末についても小さい頃から教えられてきたものです。高度成長とともに、「もったいない」が履き違えられてきたのではないかと感じています。もったいないは当たり前のことだったはず。それを改めて問い直していこうというものだと思います。本日、各方面の方々がお集まりですが、各方面で取り組めることを考えていただく良い機会だと考えています。

新発田での「もったいない」の取組を是非成功させたい。そして、事業者だけでなく、市民の家庭まで「もったいない」を根付かせていくというスタイルが取れれば良いと思います。

【C委員】

道の駅加治川桜館の食堂では、最近、ご飯や麺の量について希望を申し出るお客様が増えてきています。お客様から希望をぶつけてくれれば、「もったいない」は大成功になると思います。食堂側でもニーズに応えられるよう、半ライスや半麺など半量設定のものを、お客様にお知らせして対応しています。

【委員長】

飲食店での取組が最終的に家庭へ入り込んでいくことが理想的だと思います。ほかにこの運動に対するお考えはないでしょうか。

【A委員】

生産者の立場から事業者の方に是非お伺いしたい。宴会等で持ち帰りを申し出ても対応いただけないことが多々あります。ドギーバックのような考え方もあるが、事業者側としては保健衛生上の問題でできないという話を聞きますが、その点について意見をお伺いしたい。

【D委員】

コース料理等の提供であり、焼き物、揚げ物に限っては、持ち帰りを可として早めに食べていただくよう話しています。一つの献立の中に、持ち帰り可を知らせる表示するなど、今後考えていかなければならないと思っています。半量の提供等でも、ご飯の量について、食べる側の希望を把握していれば対応しています。ロータリークラブでも会長が、もったいない運動に取り組もうということで、食べ物は極力残さない、割り箸の使用も控えるなどの改善を図っています。事業所も「もったいない」意識を再確認して、食べ残しのないよう努め、この運動の趣旨を理解して進めていきたいと考えています。

その他、ある会合の際に、開会后 30 分はまず料理を食べていただきたいとお話したことがあります。そういった意識をもっていきたいと思えます。

【委員長】

E 委員からもお話をお願いします。

【E委員】

持ち帰りを中心でやっているのですが、際立った取組はないが、店内飲食で高齢者等が食べきれず持ち帰りを希望する場合には、対応しています。どちらかという、お客様の食べ残しというよりは、作ったのに売れ残りや期限切れ等の発生による「もったいない」が多いのが現状です。

【委員長】

食べてもらうために作っているのに、捨てなければならないのは大変もったいないことだと思います。モットイナイ運動は本委員会のメイン事業であり、柱に据えるべきものだと考えています。リレートーク等は単発の取組ですが、モットイナイ運動は継続していかなければならず、その成果が数年後に見えてくるものです。各団体の代表の方がお揃いなので、持ち帰っていただいて次回の委員会の中で発表いただくことでいかがでしょうか。

続いて予算（案）についての意見等はいかがでしょう。

【委員】

（意見等なし）

【委員長】

無いようであれば、拍手で承認をお願いします。

【委員】

（承認）

【委員長】

それでは、続いてアドバイザーである村山教授からのご助言をお願いします。

【村山教授】

食の循環によるまちづくりの取組に対し、非常に期待している者の一人として是非一緒に考えていきたいと思っています。この委員会のメインとなる事業は、モットイナイ運動になるでしょうし、各メンバーがそれぞれ取組を行うことで、進んでいくものになるので、この運動を成功させていくことが必要で、取組の初年度である今回が大変重要になってくると思っています。方向性としては、事業者の取組としての提案が多く出てきていますが、最終的には家庭にどう浸透させるかが一番大事であり、目指していくものになります。但し、直接の手立てがないこともあり、運動として盛り上げるために、まずは事業者の取組になります。家庭に入り込む一つの切り口としては、保育園、幼稚園等が鍵になると感じています。今日はそうした分野の委員の方も、おられるので期待しています。中学校、高校くらいになると、子どもに受け入れてもらえません。小さい頃から、特に小学校前に自然に身に付くものである、その辺りからのアプローチを考慮

して取り組んでいただきたいと思います。

また、若い世代への伝え方も一つの課題であるため、皆さんの考えを出し合い進めていただきたいと思います。

【委員長】

幼稚園、保育園などの小さい子どもからとの話をいただいたが、全くそのとおりであり、その頃の教育が重要なんだと思います。

それでは、事務局からその他のことについて、お話をお願いします。

【事務局】

・「しばたのおかず～郷土の食材と料理～」の発刊について

今年7月下旬に発刊予定。開港舎（神奈川県）が制作を進めている。

生産者の話や新発田のお母さん方が伝えていきたい味などを内容とする。

今後、団体等に対して、協賛、購読のお願いがありました際にはご対応をお願いしたい。

【委員長】

本日、初回ということで率直な感想をお願いします。

例えば、開催時間について等、何でも結構なのでお話を聞ければと思います。

【委員（複数）】

・開催時間が少し遅い。

・冬場の帰りのことを考えると、開催時間の考慮をお願いしたい。

【B委員】

この委員会は、年間何回を予定しているのでしょうか。

【委員長】

その他、意見等がある場合は所定の様式を用意しているので、その中でお願いします。

【事務局】

先ほどの質問についてですが、年4回の開催を予定しています。次回は8月の予定にしていますが、9月にモッタイナイ運動を始める関係上、その進捗状況により開催時期については調整を図りながら、時期を示させていただきます。

また、大使・応援団の名称について、食の循環モッタイナイ運動（案）について、それぞれできること、課題、意見等について所定の様式にて、6月30日（水）までに提出いただきますようお願いいたします。

【委員長】

その他、委員の皆様からお話がなければ、第1回推進委員会を閉会させていただきますがよろしいでしょうか。

【事務局】

進行いただきありがとうございました。

第1回目ということで盛り沢山の内容でしたが、今後、ご意見をいただきながら考えてまいりたいと思います。今後ともご協力いただきますようお願いいたします。お疲れ様でした。

（閉会）